

ツール 11：ネットマッピング

このツールの目的

多くの異なる関係者が結果に影響を与えている状況について、参加者が理解、視覚化、議論、改善できるようにする。

このツールを使うタイミング

問題の深掘りと共通言語のフェーズ。このツールはMSPのすべてのステージで用いることができる。何らかの介入を行おうとしている場合だけでなく、特定の目標が達成されたかどうかについてヒントを与えたい場合にも使用可能。

ネットマッピングとは

ネットマップはIFPRIが開発したツールで、MSP内でステークホルダーの目標がどのように作用するかについての理解と視覚化に役立つものだ。このツールはステークホルダーに、特定のネットワークにどの関係者が関わっているのか、彼らがどのようにつながっているのか、彼らにはどれほどの影響力があるのか、彼らの目標とは何かを把握させてくれる。ネットマッピングは直接的な社会ネットワーク分析ツールである。

ネットマップは、既存の2つの手法である社会ネットワーク分析とパワーマッピングツールの特徴を兼ね備えている。参加型のアプローチを用い、インタビューする者とされる者両方で政策分野の関係者のネットワークマップを描き、これらの関係者間のさまざまなつながりを視覚的に表す。次に、この両方で、チェッカー（ボードゲーム）の駒で作った「インフルエンスタワー」を加え、力関係や影響力といった抽象的概念を三次的に表現する。最後に、インタビューされる側が、さまざまな関係者がどのような方向性の目標を有しているかを評価する。

なぜネットマッピングを使うのか

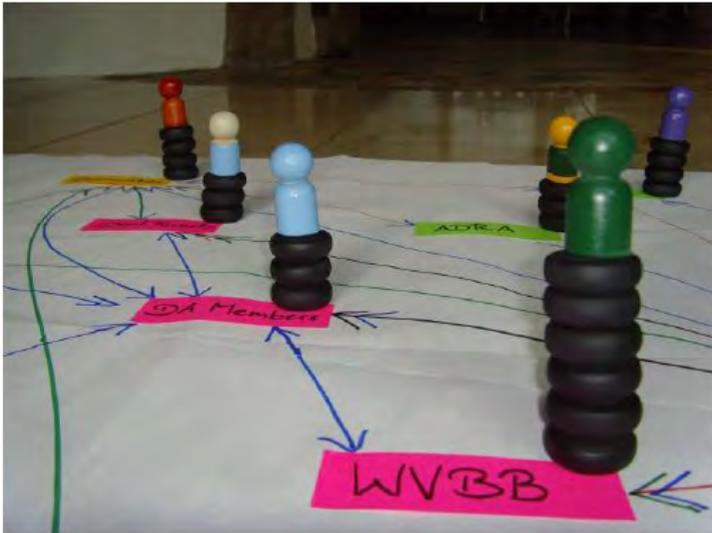
最終的にこのツールは、ガバナンス状況に関わる影響力のネットワークを明らかにしてくれると共に、関係者の力関係や影響力がどのように認識されているかについての定性的・定量的データを提供してくれる。このツールはローテクかつ低コストであり、正式な教育をほとんど受けていない農村コミュニティのメンバーを対象として使うこともできれば、政策決定者や国際的な開発機関関係者を対象に使うこともできる。

IFPRIの紹介ビデオは以下のURLから：<https://netmap.wordpress.com/about/>

ネットマッピング – ステップ・バイ・ステップ

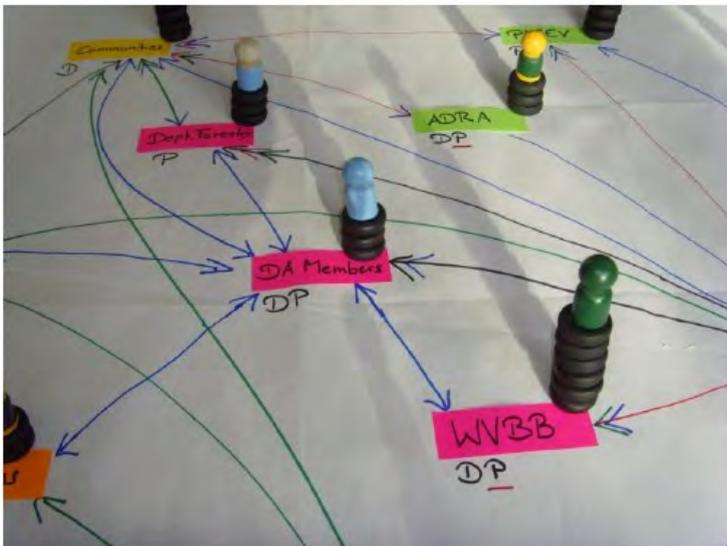
ネットマッピングのセッションに必要な材料：

- マップを描くためのフリップチャート用紙
- 関係者の名前を書くためのポストイットまたは粘着テープ
- インフルエンスタワーを作るための、円盤状で積み重ねることのできるピース（チェッカーゲームの駒や自転車のスペアパーツなど）。それがなければ、石や豆でも可
- 関係者を模した小さな像（さまざまなボードゲームで使われる駒など。用いるかどうかは任意だが、文字の読み書きができないインタビュー相手とのセッションでは特に有用）
- 関係者間のつながりを描くための、さまざまな色のマジック



5. 目標：

- 関係者一人ひとりについて順番に、事前に定義した目標に沿って質問を行う。たとえば「この関係者は環境面の目標をサポートしているのか、開発面の目標をサポートしているのか、あるいは両者をサポートしているのか？」
- 関係者カードの横に、各目標を略語で記載する。それが適切な場合は、複数の目標も可。その場合は、関係者カードの横に複数の目標を記載する（下の写真を参照のこと）。



6. ディスカッション：

- 作成したネットマップの個別の目標に従い、このネットワークが組織の戦略にとってどのような意味を持つのか、影響力の源泉とは何か、各目標間に軋轢が生じた場合はどうなるのか、等について議論する。

さらに知りたい方は：

Schiffer, E. (IFPRI) (2007). Net-Map English Manual:
<https://netmap.files.wordpress.com/2008/06/net-map-manual-long1.pdf>

Schiffer, E. (IFPRI) (2008). Net-Map training slide show:
<https://netmap.files.wordpress.com/2008/05/net-map-tool-pool-seminar-14th-may-08small2.pdf>